

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 人文社会系研究科・博士課程2年

参加プログラム: 全学交換留学 派遣先大学: 国立台湾大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

国立台湾大学(1928-、旧台北帝国大学)は、3万人を超える学生を有する台湾最大の大学であり、台湾文学を専門とする研究所をもつ数少ない大学の一つである。

留学した動機

中国語能力の向上、博士論文執筆のための調査および研究。

留学の時期など

- ①留学前の本学での修学状況: 西暦[2013]年 学部/修士/博士[2]年の[夏]学期まで履修
- ②留学中の学籍: 休学/留学
- ③留学期間: 2013年9月 ~ 2014年6月 学部/修士/博士[2]年時に出発
- ④留学後の授業履修: 西暦[2014]年 学部/修士/博士[3]年の[冬]学期から履修開始
- ⑤就職活動の時期: 西暦[2014]年 学部/修士/博士[3]年の[秋~冬]月頃に(行った/行う予定)
- ⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[21]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[6]単位
留学後の取得(予定)単位[5]単位
- ⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2012]年 [4]月入学 西暦[2015]年 [3]月卒業/修了
- ⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [3]年[0]ヶ月間
- ⑨留学時期を決めた理由:
博士論文の題目を明確に決定した後に具体的な目標を持って留学したかったから。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

研究計画をなるべく具体的に書くこと。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

台北駐日経済文化代表処(東京都港区高輪)にて申請。翌日発行。詳しくは以下を参照。

<http://www.taiwanembassy.org/JP/ct.asp?xItem=479452&ctNode=1470&mp=202>

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

ビザ申請のため、HIV 検査を含めた健康診断を行った(自分の場合は品川イーセントクリニックにて)。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

9月~12月の3ヶ月は、クレジットカードに付与されている海外保険を利用、12月~7月は、朝日火災海上保険を利用した。しかし、台湾では居留証を持っていれば、「全国国民健康保険」に加入することができるため、そちらの方が確実に安価で有用であった。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

通年で履修していた授業に対し単位分割申請を行うこと。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

中国語圏の文学が研究対象であるため、留学前に特別な学習などはしていない。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

台湾で、どのような保険に加入するか等の調査。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。
「中文文學的世界」「國際生華語(一)」

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

講義の場合、中間テスト/レポートがあるため、学習したことを整理しやすいように思う。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

聴講も含め、3~4科目。週あたりの学習・研究時間は、おそらく30~50時間(論文執筆時が最も多い)。

④学習・研究面でのアドバイス

台湾大學付近は、古本屋や書店が多く、魅力的な一冊との出会いが必ずある。語学の上達や文化を知るという意味でも、ぜひ書店に多く足を運んでみてほしい。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

学術的な口頭言語・書面言語を習得することが非常に困難で、未だ十分に達成できたとは言えない。発音に関しては、あらためて注音記号を覚え、台湾の友人との言語交換を通して少しずつ改善した。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

台湾大學の宿舎(太子学舎の水源宿舎)。独り部屋(シャワー・トイレ付)の家賃は一ヶ月7,400元(約25,000円)。宿舎は管理が行き届いており、安心して住むことができる。建物には清潔感があり、交通の便も良い。上層階の部屋であれば、台北101あるいは河濱公園等の美しい景観を望めるだろう。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

台湾大學周辺(公館駅付近)は、学生街のためとても賑やかで、食事や買い物を楽しむことができる。交通の便も良好であるが、都会であるため、夏が始まる5月頃より湿気と高温に注意しなければならない。台北は特に雨天が多いため、部屋の除湿は必須である。私の場合、生活費はおもに日本円を両替し、高価なものについてはクレジットカードを使用していた。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

台湾の治安は非常に良好だが、スクーターが多いので、道路を歩く際には十分な注意が必要である。一般的に中華料理は油が多いので、過食により胃を壊すこともあるかもしれないが、一方で新鮮なフルーツが豊富にあり、私は非常に栄養バランスの取れた食事をすることができていた。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

60,000円=17,500元。家賃:25,000円 食費および交際費など:34,000円

・留学に要した費用総額とその内訳

約76,100円。航空賃合計:約110,000円(4回) 家賃:約275,000円 食費および交際費など:約376,000円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

日本学生機構奨学金(短期)。2013年9月~2014年6月、月額60,000円。本部国際交流課の情報より知った。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

自宅ではほぼ毎日運動をしていた。週末は友人とダンスをしたり、海へ出かけたりした。長期休暇は日本へ帰省した。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

留学生のための活動が多く考案されており、生活面でのサポートは十分であると思う。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

台湾大學の総合図書館には、調査に必要な書籍がほとんど集まっており、非常に利用しやすかった。多くの学生が大学内の寮に住んでいるため、食堂も多く、安価なうえに種類が豊富で美味しかった。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

研究職に就きたいと考えているが、今回の留学では整った環境下で論文執筆に集中することができ、自分の研究の方向性が明確になるとともに、自信がついた。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

恐れずに、人脈を多く作る。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- 1.研究職
- 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:)
- 3.公的機関(機関名:)
- 4.非営利団体(団体名又は分野:)
- 5.民間企業(企業名又は業界:)
- 6.起業(分野:)
- 7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

学術的に十分な精練された中国語を扱えるようになることを目標としていたが、それを達成することが非常に困難であった。それでも多くの読書や発表等を通して、発音や表現力は上達したように思う。また、多くの先輩研究者や目標を同じくした大学院生と知り合い、様々な刺激を受けたと同時に、いま自分が研究対象としている台湾人作家の白先勇氏との面識を得ることもでき、今後の研究の大いなる糧となった。

②留学後の予定

博士論文執筆を進める一方、非常勤講師の職を探し、学術振興会および外国人研究員枠への応募・申請を行う。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

新しい土地、新しい環境、新しい見方を知ることで、いかなる状況においても柔軟かつ冷静に対応できる人間になれると思う。ぜひ現地の人々のあいだにとけ込むようにして、その場所に住んでほしい。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):工学系研究科修士一年

参加プログラム:全学交換留学 派遣先大学:国立台湾大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:未定) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

国立台湾大学(1928-、旧台北帝国大学)は、3万人を超える学生を有する台湾で最も大きな大学の一つ。

留学した動機

管理学院と呼ばれる商業系の学部群に所属し専門外の知識を修得すること
中国語のブラッシュアップをすること
長期留学自体を経験すること

留学の時期など

- ①留学前の本学での修学状況: 西暦[2013]年 学部/修士/博士[1]年の[夏]学期まで履修
- ②留学中の学籍: 休学/留学
- ③留学期間: 2013年9月 ~ 2014年10月 学部/修士/博士[1]年時に出発
- ④留学後の授業履修: 西暦[2014]年 学部/修士/博士[1]年の[冬]学期から履修開始
- ⑤就職活動の時期: 西暦[2014]年 学部/修士/博士[1]年の[11]月頃に(行った/行う予定)
- ⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[18]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[未定]単位
留学後の取得(予定)単位[12]単位
- ⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2013]年 [4]月入学 西暦[2016]年 [3]月卒業/修了
- ⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [2]年[11]ヶ月間
- ⑨留学時期を決めた理由: 社会に出る前に、長期間海外に留学する経験を積みたかったのが一番の理由です。修士論文との兼ね合いも考慮した上で、修士一年の夏学期で単位をほぼ揃え帰国後の冬学期から研究を開始するという計画であったため、修士一年の冬学期から一年間の留学を決めました。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

基本的には東大の国際交流課のスタッフからの連絡に従い入学手続きをすれば問題無いです。台湾大学の場合は独自のオンラインシステムを持っているため、必要な情報や資料を段階的にそのシステムを通じて提出することで入学手続きとなります。向こう側の対応が少し遅かったため、不安になった時期もありましたが問題なく留学できているためこの点に関しては少し辛抱すれば大丈夫です。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは台北駐日経済文化代表処(東京都港区高輪)に行き、発行しました。当日その場で発行することができ、特に問題はありませんでした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

健康診断に関しては地元のクリニックで行いました。常備薬はかぜ薬や胃腸薬等を携帯して行きました。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

保険は留学保険を購入しましたが、非常に高価であったため台湾についてから国民保険を申請したほうが良かったと思いますし、そうすることをおすすめします。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特にありません。教授と面談をし、留学にゴーサインを出してもらったくらいです。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

英語はTOEIC900点台、中国語はHSK6級230点程度取得していたので現地についてからこれといって苦労することはありませんでした。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

基本的に現地調達で何とかなります。中国語の勉強は出発前にやっておくべきだと思います。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

Insurance, General Chinese Language Course(1&2), Academic English Writing, Disaster Management and Civil Engineering, Investments, Financial Statement Analysis,

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

Disaster Management and Civil Engineering

先生が土木とコンピュータ科学の2つを専門としていて、分野横断的な講義だったので非常に興味深かったです。すなわちコンピュータ科学の知識をどう災害時に活用するのかという内容でした。

授業のスタイルは3コマのうち2コマを講義、残りを演習というスタイルであったため定着度が高かったように思います。また毎回課題が課されるのも印象的でした。

Financial Statement Analysis

これはGMBAと呼ばれるMBAコースの授業です。多国籍のクラスですべて英語。基本的にはHBSのケースを読みグループごとに発表するという授業スタイルです。生徒参加型の授業だったので非常に面白かったです。またいろいろなバックグラウンドを持つ人と英語で議論するという経験を積むことが出来ました。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

前半の学期は18単位と交換留学生にしては多めに履修しました、後半の学期は最終的には6単位と前半の学期に比べて取得単位数は少ないですがその分サークル活動や友人との活動に時間を費やすことが出来ました。

④学習・研究面でのアドバイス

学習面ではできるだけ積極的に授業に参加すること、そして周りの学生と関わりを持つことがその後の留学期間を充実したものに出ると思います。基本的に自分の場合は台湾でしか学ぶことのできないことを学ぶために留学したわけではないので、もちろん学習は重要ですがそれに付随する部分での積極性が重要だと思います。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

はじめは少し聞き取りに苦勞しましたが、あえてほぼ台湾人しかいないサークルに参加することで帰国時には会話で苦勞することはほとんどなくなりました。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

台湾大学附属の寮に住んでいました。場所は台湾大学のある公館の近くで通学には便利でした。寮の値段は1月7000元ほど。現地の物価からしたら安くはありませんが、一人部屋ということと立地を考えると高くはないという印象です。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

生活環境は空気が日本に比べて汚いこと・オートバイが多く交通状況が日常的に乱れていること等を除けば快適に過ごすことが出来ました。食事に関しては、大学付近は学生街になっておりいたるところにレストランや露店がありますので店を探すこと自体に苦勞することはないと思います。もちろん衛生管理は日本以上にばらつきがあるのでそこは自分の感覚と友人のアドバイスを聞いてください。お金に関してはキャッシングが使えなかったため基本的にクレジットカードを使っていました。また家庭教師のアルバイトを個別に行ったりして自分で使うお金の一部を捻出していました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

台湾の治安は非常に良く、夜中1人で外出しても特に問題はありません。医療機関には幸いお世話になることはなかったのですが詳しいことはわかりませんが、基本的に日本と同等のサービスを受けられるのではないかと思います。健康面で気をつけたことは食事です。油っぽい食事が多いので、できるだけ野菜中心の生活にしようという心がけをしました。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

毎月の生活費は大体1万円以内で収まると思います。食事代がほぼすべてを占め、新学期の時期はそれに加え教科書代がかさみます。

・留学に要した費用総額とその内訳

概算で保険15万、寮代32万、生活費35万なのでトータル100万以内で生活は可能だと思います。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO奨学金を受給。月額6万円。国際交流課による紹介。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

テニスサークルに参加しました。

夏休みには現地の日系企業での中期インターン(2週間)を行いました。
一週間、車で台湾一周の旅に出たりもしました。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

留学生がもともと多い大学なので基本的に特に問題になるような自体が発生することはなかったです。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館が非常に立派であり利用価値がありました。スポーツ施設に関しては新たに建てられた大規模な体育館があり、特に不自由することはないと思われま

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

1年遅れるくらいで特になく考えています。むしろ駐在員の方にお話を伺う機会があったり、日系の現地法人でインターンする機会に恵まれたりとメリットのほうが大きいように思います。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

日本で一生働くという考えを見直すことが出来ました。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

駐在員の方のお話を主に伺っていました。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- 1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:)
- 4.非営利団体(団体名又は分野:) 5.民間企業(企業名又は業界:)
- 6.起業(分野:) 7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

海外で、1ヶ月以上の期間1人で生活する経験というのは今回の留学が初めてであったため、結論から言えば苦労しました。特に渡航直後の様々な手続き(居留証の発行、大学入学手続き、履修手続き等)や食事、洗濯などに苦労しました。1人で暮らすことで初めて家族の有り難みに気づくことが出来ました。これは自分の中で大きな発見であり、留学しなければ実感することができなかった点です。幸い台湾大学側は留学生の苦労も考え、世話役の学生を1名用意してくれていたため、わからないことがあればその世話役に聞くことで解決することが出来ました。

②留学後の予定

修士論文の執筆と同時に就職活動を開始する

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

迷っているとしたら是非留学をすることをオススメします。実際にしてみないとわからないこともありますし、何かしら収穫はあると思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):学際情報学府 学際情報学専攻 博士課程3年

参加プログラム:全学交換留学 派遣先大学:台湾・国立台湾大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

台湾を代表する総合大学で台湾一の教育・研究機関である。

留学した動機

中国語の学習し東北アジアの近代と現代の事情について深く理解するため

留学の時期など

- ① 留学前の本学での修学状況: 西暦[2013]年 学部/修士/博士[2]年の[冬]学期まで履修
- ② 留学中の学籍: 休学/留学
- ③ 留学期間: 2014年2月 ~ 2015年1月 学部/修士/博士[3]年時に出発
- ④ 留学後の授業履修: 西暦[2015]年 学部/修士/博士[4]年の[春]学期から履修開始
- ⑤ 就職活動の時期: 西暦[]年 学部/修士/博士[4]年の[11]月頃に(行った/行う予定)
- ⑥ 本学での単位数: 留学前の取得単位[20]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[0]単位
留学後の取得(予定)単位[0]単位
- ⑦ 入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2012]年 [4]月入学 西暦[2016]年 [3]月卒業/修了
- ⑧ 本学入学から卒業/修了までの期間: [4]年[0]ヶ月間
- ⑨ 留学時期を決めた理由:
博士1年と2年は研究が忙しく余裕がなかったが、少し余裕ができた3年に留学を決意。

留学の準備

- ① 留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
ビザ(1年以上)を申請するためには入学許可書が必要であり、発行から発送まで時間がかかる場合があるので、早めに書類準備を開始することをおすすめする。台湾の大学の学年は9月(第1学期)から始まる。日本と学年歴が異なるため希望する学期によって早めにオンラインアプリケーションと渡航準備をする必要がある。
また、留学期間に応じた保険に加入する必要がある(死亡時の補償額が約34000ドルくらい必要)。
- ① ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
都内にある台北駐日経済文化代表処で申請を行った。
- ② 医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
1年ビザ申請時、通常の定期健康診断の項目に加え、追加で検査してもらった項目がある。はしかなどの予防接種をしていない場合、予防接種をしておく必要がある。
- ④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
保険会社と本人の条件によって加入金と補償額が違うので自分に合う保険会社の情報を集める。
- ③ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
留学先大学との相談は主に本部の国際交流課の方と、履修可能な科目と留学許可については研究科の学務の方と相談しながら手続きを進めた。
- ④ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)
留学先大学のオフィスは基本英語が通じるが、ローカルなお店では英語が通じない場合が多い(日本語が通じる場合はある)。基本的な中国語を学んでおくことで生活や勉強の役に立つ。
- ⑤ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
私は冬(2月)に渡航したが、南国とはいえ、湿度が高く暖房機器が整っていないので寒さに意外と寒いと感じた。冬着を予備として持っておくと安心。夏も湿度が高くカビが生えやすいので除湿機能のあるものがあると便利。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

General Chinese Language Course (II) (3 単位)

Chinese Enhancing Course (II) (1 単位)

Seminar on Cross-Taiwan Strait Relations (2 単位)

Market and Economic Development of Taiwan (2 単位)

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

中国語の授業は毎日あるのでしっかり予習・復習をしないとついていけなくなる。一定の時間は予習復習のために費やした。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

・授業

中国語講座(計4単位、400分/週)

台湾事情関連授業2科目(計4単位、200分/週)

・授業以外

平均15~20時間/週

④学習・研究面でのアドバイス

可能であれば研究や勉強(特に語学)のアドバイスができる友人・先生を見つけるといい。そうすると現地の人と会うチャンスも増え、役に立つ場合も多い。一人で悩むより相談できる友人・先生がいると留学生活の不安は少しでも解消できる。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

繁体字で中国語を学ぶので簡体字での学習を希望する場合は中国本土で勉強をすることをおすすめする。日本語の常用漢字と異なる場合があるが、大体推測ができる。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学が提供する大学の水源宿舎で滞在した。家賃は7400TWD(水道代込み)。割と新しい宿舎であるが防音がいまいちで騒音対策(耳栓など)が必要。管理人は24時間体制で常駐しているが英語があまり通じない管理人もいる。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

学生街で夜市も近くにあるので食べるのに不自由はない。生活費は日本の銀行のデビットカードを利用し必要な額だけおろして現金で保管した。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は良いほうだが、人気があまりないところには注意が必要。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

宿舎費 7400TWD(水道代込み)

光熱費 600TWD

食費 12000TWD

雑費 3000TWD

計 23000TWD

・留学に要した費用総額とその内訳

留学先大学の学費は免除だがインターネット接続料として年額数百 TWD 徴収される。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東京大学海外留学奨学金・60000円・留学申請時に併せて申請。

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

宿舎内で卓球台があるので卓球をしたり、夜市に行ったりするなどリラクゼーションにつとめた。時間と金銭に余裕さえあれば、交通費が安いので長距離の移動も可能。サークルも多いので興味があるサークルがあれば参加してみるとよい。

派遣先大学の環境について

① 留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

交換留学生は無料の中国語講座を履修することができる。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

キャンパスが広いので中古の自転車を買って移動する。正門から総合図書館まで900mほど離れている。食堂、図書館すべてキャンパス内に整ってある。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

中国語・英語の勉強に役立った。東アジアにおける日本企業の進出状況を観察することができた。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

海外にいと困った時全て自分で対応しなければならないので、自立心をもって就職活動に臨むことができると思う。

③ 留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

中国語の資格(HSK)は出願から結果通知まで時間がかかるのでできるだけ早く受験の申し込みをした。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- 1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:)
4.非営利団体(団体名又は分野:) 5.民間企業(企業名又は業界:)
6.起業(分野:) 7.その他()

留学を振り返って

① 留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

問題が発生した場合、自分が対応しなければならないので、問題解決方法を自ら考える努力をした。多くの国の人と出会えた分、異文化について理解を深めることができた。

④ 留学後の予定

中国語の上位資格に挑戦する。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

慣れないことが多くてもぶつけていく中で学ぶことも多いと思うのでいろいろとチャレンジしてみましょう！
。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

台北ナビ(<http://www.taipeinavi.com>)

東京大学 海外留学・国際交流情報 Go global のホームページ

(<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/administration/go-global/>)

国立台湾大学 Office of International Affair ホームページ(<http://www.oia.ntu.edu.tw/oia/>)

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):総合文化研究科博士・四年

参加プログラム:全学交換留学 派遣先大学: 国立台湾大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

台湾第一の国立大学として、帝国大学時代からの建物が印象的であり、非常に大きくて便利な総合図書館がある。

留学した動機

博士論文の執筆のための資料調査

留学の時期など

- ①留学前の本学での修学状況: 西暦[2013]年 学部/修士/博士[3]年の[冬]学期まで履修
- ②留学中の学籍: 休学/留学
- ③留学期間: 2014年2月 ~ 2014年12月 学部/修士/博士[4]年時に出発
- ④留学後の授業履修: 西暦[2015]年 学部/修士/博士[5]年の[春]学期から履修開始
- ⑤就職活動の時期: 西暦[2016]年 学部/修士/博士[6]年の[6]月頃に(行った/行う予定)
- ⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[21]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[0]単位
留学後の取得(予定)単位[4]単位
- ⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2011]年 [4]月入学 西暦[2016]年 [3]月卒業/修了
- ⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [5]年[]ヶ月間
- ⑨留学時期を決めた理由: 博士論文の後半部を構想しなかったため。

留学の準備

- ①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
博士ならまず希望する学科の教員と連絡を取って承諾をもらうことが一番大事だと思う。
- ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
ビザ申請用の健康診断が必要なので事前に準備すること。
- ③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
台湾のドラッグストアでも日本製の薬を買うことができるのであまり心配する必要はないが、常備薬としては胃の薬、かぜ薬などとムヒが必要。
- ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
留学保険
- ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
特になし。
- ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)
生活に関する会話とか単語、特に食堂のメニューとか食べ物の中国語を調べて行った方がいい。
- ⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
無地良品とかは台湾では結構高いので買って行った方がいいと思う。

学習・研究について

- ①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)
※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。
[Independent Studies]
- ②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

大体論文の執筆と資料調査が全部。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

1 Credit、論文の指導

④学習・研究面でのアドバイス

台湾大学の総合図書館が非常に便利なので必ず利用すること。図書館ウェブサイトのデジタルアーカイブもぜひ。そして中央研究院までのシャトルバス(無料)があるので利用すること。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

台湾大学の友人と言語交換をお勧めする。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

台湾大学の寮(水源宿舎、http://ntudorm.prince.com.tw/Introduction_List.aspx)。防音が悪いが、生活しやすい。部屋にアリアが出るので飲食管理に注意すること。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

台湾大学は台北の都心近くにあるので、大学周辺はいつも賑やかである。交通は便利だが、周辺に車とスクーターが多いので注意すること。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

特に治安の問題は心配する必要がないと思われる。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

寮の家賃(7400NT)+生活費(8000NT)で大体一ヶ月 6 万円ぐらい

・留学に要した費用総額とその内訳

学費+家賃+生活費などで約 15 万円。寮の部屋には何にもないので初期費用がかかる(布団、生活用品、食器など)。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

Taiwan Fellowship、台湾外交部、50000NT(<http://taiwanfellowship.ncl.edu.tw/cht/index.aspx>)

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

無し。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

あまり問題はなかった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

台湾大学は図書館ほかスポーツ施設もよいので利用してみることに。大学内で常に Wifi 使えるし PC 環境も優秀。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

台湾の研究者たちと交流することができたので今後の研究活動において非常に有益なことであると思われる。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:)

4.非営利団体(団体名又は分野:) 5.民間企業(企業名又は業界:)

6.起業(分野:) 7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

資料が豊富で、時間的にも論文の執筆に集中することができて満足。一人生活で寂しいところもあるが、それほど自己管理にも気をつけなくてはならないから、留学後は自分なりに強くなったというような感じもある。

②留学後の予定

博士論文を完成したい。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学生活は自分でちゃんとスケジュールとか計画・管理しないと時間の無駄になる可能性が少ないので、自ら留学の目標などについて十分考えたうえで進めること。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。